

別記様式（第10条関係）

議会報告会等実施報告書

開催日時	令和4年11月9日 13時30分～15時00分	
開催場所	健康文化センター 1F 会議室	
出席議員 4人 (総務建設常任委員会)	委員長 岡 孝夫 (司会、記録) 委員 江幡 満世志 酒井 正宗 丹羽 勉	
参加町民数	4人 相手方：特定非営利活動法人 まちねっと大口 木野理事長他、正職員3人	
実施内容	議会報告会	
	意見交換会	<ul style="list-style-type: none"> ・議会側 冒頭、議員紹介を含む議会の概要を説明(パワーポイント) ・まちねっと側 出席者紹介・主な事業説明(パワーポイント)等を経て、当日提示された6つの視点について、順次意見交換を実施した。
要望・提言等	<p>① 多文化共生、②生活支援、③シティプロモーション、 ④子ども会、⑤文化協会、⑥人の集まる空間づくり 他に係る要望等あり。 【詳細は別紙】</p>	
その他特記事項	特になし	

令和4年11月28日

大口町議会議長

齊木 一三 様

議会広聴広報常任委員会委員長

丹羽 孝 様

総務建設常任委員会 委員長 岡 孝夫

議会報告会等実施報告書（別紙）

相手方：まちなつと大口

作成：令和4年11月30日

総務建設常任委員会 委員長 岡 孝夫

当該団体からの要望・提言等

6つの視点(多文化共生、生活支援、シティプロモーション、子ども会、文化協会、人が集まる空間づくり) 他に関し問題提起があり、以下に要望・提言等を記す。

1. 多文化共生

懸念：外国籍住民(家族)の増加と高齢化

- ・外国籍の方が高齢化し介護保険を利用、介護が必要に。
- ・流暢な日本語が話せる方でも認知症からか母語帰りし、日本語や日本の文化を忘れてしまう事例も増えてきている模様。
- ・介護保険を申請したいが通訳できる人はいるか という課題もある。
- ・日本語での会話はできるが、学習面についていけない子が多いということがあまり知られていないのではないか。こどもたちは基本的に母語が育っていないので、読み書きができないといったことで学習面が伸びないという課題がある。親とは外国語で話し、日本人との普段の会話は日本語といったことから、学校の先生でも気づかないことが多い。こういったところへのサポートが必要なのでは。
- ・大口町は企業が多いので、「会話ができなくとも、与えられた作業ができれば」といった側面があるのでは。親御さんは日本語の会話ができない方が多いが、生活面では自分たちのコミュニティがあるため、困らないので必要としていない。(何かあったときには困ることになるが、日常の生活においては、特段何も困っていない。目に見える課題と目に見えない課題があるのだと思う。
- ・子どもたちは、日常の生活での会話等に課題はないが受験があるので、将来的に対応できないのでは。

- ・大口町には日本語教育が必要な子どもたちを指導できる先生がまだまだ少ないのでは。岩倉市、小牧市には特化した先生がいると思う。ただ、逆に外国籍の子どもが多い市町では、子どもたちが母国語で話すので日本語が更に身につかないと思う。
- ・切れ目のない支援が必要。妊娠したときから、色々な不安・文化の違いがある。学齢期になって、初めて困ったでは遅すぎる。全体として課題を把握していくところが必要だし、こういった状況について関係機関(学校・先生・学校教育課・保健センター等)での連携がまだまだ足りていないのでは。少数かも知れないが、こういった状況を理解・認識し、課題解決に向けて何かできないかを考えていければと思っている。
- ・今までも、行政側にこういったことを発信したことはあるが、具体的なことは色々な課の連携が必要と思う。

2. 生活支援

懸念：地域によって違いはあるが、課題が増えている

- ・中地域と南地域で生活支援体制整備コーディネート事業を受託しており（北地域は社協）、地域自治組織の福祉・健康といった部会に参加しているが、それぞれの課題に対してどうしていくといった段階には未だ至っていない。
- ・他に地域支援のコーディネート事業を受託しているので、北・中・南の課題解決に向けて進めていきたい。
- ・地域の繋がりが希薄。高齢者だけではなく、子どもの見守りも必要とされる中であって、「地域の繋がりがからだよね」と言われるが、子ども会の加入率が低い、隣の人を知らない等、どんどん繋がりが希薄になっている。昔からあるような見守りや助け合いといったことができていない。地域で課題を解決していかなければならないが、3つの地域でも全く違う。地域の課題解決には行政でも私たちのような団体でも無理。住民主導の活動だと思うので、おいそれと船頭はできない。（地域にとって、やらされ感が出ないようにサポートをしているつもりなのだが）みなさんにも地域の活動に注目・応援してくれると嬉しい。
- ・避難行動要支援者登録制度が進んでいない中だが、地域に渡そうとしている。
- ・これだけ情報が遮断されると、誰をどう支援してよいのかが全くわからない。
- ・行政が地域に託して良いものと、そうでないものがあるのだと思う。

3. シティプロモーション

懸念：住める土地がない

- ・定住者や移住者を受け入れる段階に入るが、受け入れる体制があるかどうか。
- ・大口町の魅力を知ってもらおうと、今、小学校にも行っているが・・・。(子どもの時から大口町愛を高める活動を進めてきた。総合の学習の授業で)
- ・今度、計画の第3期となり、その集大成となるが、本町への移住、定住を勧める中であって、実際、本町に住むことが困難な状況にある。事業を進める側も残り3年間の進め方を迷っている。
- ・土地がない。あっても高いので、近隣市町に住むことを決めたという話を聞くことが多々ある。
- ・建売の小さな住宅ではなく、土地が欲しいが高い。かつ、狭い。
- ・今、町内に住んでいて、別のところで建て替えたいと思っても土地がない。
- ・空き家バンク等の情報提供や事例紹介をしてもらおうと、事業が進めやすい。具体的に大口町に住めるといったイメージができるのでは。

4. 子ども会

懸念：入会しない人が増えている

(直接ではないが、子ども会のサポート業務に関わる中で)

- ・最近では、希望者が子ども会に入るという風潮。
- ・個人情報保護の観点から、こちらからは様々な情報を入手することができないので、希望者が申請しないと子ども会に入ることができない状態。
- ・役員をやりたくない、共稼ぎが増えているといったことから加入者が減ってきている。子ども同士含め、父母間の繋がりも減って地域の問題になっているのでは。
- ・類似で、お宮に入るという意識がない人もいる。転入してきた方が、地元の秋祭りに行ったら、名簿に名前がなかったため、半纏等がもらえず祭りに参加できなかったという。転入してきた方には「なぜ参加できなかったのか」がわからない。名簿がない、案内もない、誰も教えてくれないといった事例もあった。ますます地域の繋がりが薄くなってしまう。(地域によると思うが、自治会は誘いに来るが、お宮とか氏子の案内は来ないので)
- ・ここ2年、コロナで様々なイベントができなかったことも一因だと思う。

「子ども会に入らなくとも」といったことに繋がっているのかも。地域によってはどこかといっしょにやらないと子ども会自体の存続ができないようなところも。

5. 文化協会

懸念：会員の高齢化 生涯学習が介護予防となっている

- ・コロナ前は文化協会の事務の支援(助成金の申請等)をしていたが、コロナで施設慰問や発表会が開催できなくなり、活動自体ができなくなっている。
- ・ある80人ほどの団体が解散する。理由は、この3年程で寝たきりや家から出られなくなった等で活動自体が困難となり、クラブが成り立たなくなった。今までは、ちょっと若い人等が免許返納した方等をずっと送迎していたが、活動を休止していた間にその方が寝たきりになってしまった。老化が進んで家から出られなくなった方がすごく増えていった。こういった活動は趣味ではなく、実は介護予防だったことに気づかされた3年間だった。
- ・今までも世代交代といったこともなかったが、高齢になっても続けてきた。歳に関係なく、一旦、活動を止めてしまうと再開できなくなる。
- ・コロナで会場も使えなかったので仕方がなかったことではあるが、高齢者へのサポートについて、もう少し考えてあげられたのなら、解散は回避できたのかも。

6. 人の集まる空間づくり

懸念：その後、どうなったのでしょうか

- ・人の集まる空間は魅力的。関わっていたので、もったいない。
- ・公共施設が点在する中で、ギュッと集まれる場所があってもよいのでは。

その他（個人としての要望）

- ・身体、知的障がいがある子用の入所施設が欲しい。
- ・グループホームは無理なので、重度の障がいを持つ子の入所施設が欲しい。